## 经営理念が企業の行動を決める「経営理念」が存在することの価値

経営理念というのは経営の目標、目的、原則といった形而上の思考や範囲のことです。したがって経営理念からは哲学的なイメージを受け、それが戦略的なものには思えないかもしれません。しかし、それは組織の方向性、将来性、などの発展と大きく関係するのです。

わたしは合璧の経営理念について考えたことがあります。合璧の経営理念は董事長の生活哲学が核心にあり、その価値観に基づいて作り出されています。それは決して降って湧いたものではなく、また経営理念が必要だということで考え出されたものでもありません。董事長自らが実際の生活、自身の精神、社会への責任などから一歩ずつ悟ったものの積み重ねなのです。

「My life is my message」。ここでは董事長がいかにして経営理念を見つけ出したかではなく、経営理念がどうして会社の行動を決めるのかについて分析してみたいと思います。

まず合璧の経営理念を見てみましょう。

「不断地思考與行動（弛み無い不断の思考と行動を取る）。誠信蛻変、創新卓越（誠実に変化に適応し、卓越した創意を図る）。創造価値、共生共榮（価値を創造し、共生共榮を図る）。感謝報恩、回饋社会（感謝と報恩の念を以って、社会に寄与）」

四つの言葉のうち前二つはどうやって経営するかについて、後ろ二つは何故経営するかについてです。もう少し細かく分析すると、「卓越した創意を図る」というのは会社の戦略における理想です。そのためには「弛み無い不断の思考と行動を取る」ことや「誠実に変化に適応し、卓越した創意を図る」ことが必要なのです。つまり、これは会社が発展するためになくてはならない基盤の部分です。

「価値の創造、共生共榮」は会社の価値の核心です。わたしたちは「価値を創造する」ことによってのみ「共生共榮」が可能です。ここでいう価値とは物質的な価値に留まらず精神的な価値までを含みます。さらに「共生共榮」についてはわたしたち自身の幸せに留まらず自然や社会との「共生共榮」を意味しています。

そして「感謝と報恩の念を以って、社会に寄与」は会社の経営の最終目的であるとともに使命でもあります。董事長はいつもこの精神をわたしたちに教えようとしています。

今度は逆方向に見てみましょう。どういうことかというと、経営の最終目的である「感謝と報恩の念を以って、社会に寄与」を成し遂げるには、その前に必ず物質と精神の両面で「価値の創造」が必要となってきます。では、どうやって「価値の創造」を行うかといえば、前の二つの言葉が明確にそれを示しています。「弛み無い不断の思考と行動を取る」が方法、「誠実に変化に適応し」が過程、「卓越した創意を図る」が理想です。

このように分析すると、董事長には本当に感心します。僅か四つの言葉ですが、それぞれに哲理を持ち、お互い関連し合って深い理論を展開しています。さて、ここで本稿のタイトルである「経営理念が企業の行動を決める」について見てみましょう。合璧においてはすでに偉大なリーダーが経営理念の中に高度な戦略でもって企業が何をすべきかを示しています。

経営理念に関する分析についてはまだまだ話したいことはたくさんありますが、ここでは字数に限りもあるので、最後にまとめとして経営理念をつかさどる三つの部分についてお話したいと思います。一、戦略と理想：会社が将来に向けて望む姿。二、価値観の核心：会社内外の関係を調整し、発展する方向に規則を与える。三、組織の使命：会社存在の目的と理由。経営理念は決して会社の飾り物ではありません。よい経営理念の本質は戦略で、会社にとっては素晴らしい看板となります。これはまさにわたしが考えるところです。

経営理念と精神は会社の最も積極的で輝かしい部分です。全従業員がそれを共有することで、同じ考えの下、同じ目標に向かって進んでいくことができるのだと思います。

上海合璧生産技術課廚課長　馬広誠(江蘇高郵)

## 言葉にできない感謝

台湾親族中国旅行の日程表を受け取った時、わたしは言葉にできない感動と感謝の気持ちを覚えました。そして過去のさまざまな出来事を思い出さずにはいられませんでした。

わたしたちが初めて家を買った時、義兄さんは50万台湾元を援助してくれました。これは総額の約三分の一に当たります。義兄さんのほかにこれほどの大金を援助してくれる人はいません。この援助の背景には精神的な鼓舞も託されていたと思います。

家はだれにとっても心の帰属する場所です。わたしたちは義兄さんによって生活の安定と温かさを得ることができたのです。しかし不幸にも、住んで間もないその家も台湾の歴史上最大ともいえる九二一地震によって倒れてしまいました。わたしたちは再び家がなくなってしまったのです。しかし、そんなどうしようもない時にも義兄さんはわたしたちを助けてくれました。台中の家を無償で住まわせてくれたのです。こうして十年。この間、義兄さんは家屋税までわたしたちに払わせませんでした。このような一連の出来事を思い出すと涙があふれてきました。

そして今回、義兄さんはわたしたちを中国旅行に招待してくれました。思ってもみないことでした。わたしも娘も初めての海外旅行だったので、その感動はいうまでもありません。義兄さん、本当に有難うございました。心から感謝します。

次に上海合璧についても少し印象をお話させていただきます。上海合璧に対するわたしの感想は「義兄さんの会社はすごい。こんなにきれいな工場やこんなに経営が成功した企業は見たことない」です。そして、従業員の熱烈な歓迎には驚くとともに感動しました。招待所でも心温まる光景が見られました。設備はきちんと整い、細かなところにまで気配りがなされていて、まるで自分の家にいるような気分になりました。翌朝従業員はみんなで禅の5Sを行って、職場をきれいに維持していました。こうして作った環境は工場とは思えないもので、きれいな公園にでもいるかのような快適な感じでした。このあとみんなそろっての体操、朝礼とすべてにおいてほかでは見られない光景に感動を覚えました。そして心の中で「合璧はすごい！」と思ってしまったのです。続いて義兄さんから会社の理念と文化について聞きました。これは合璧にしかないもので、これによって合璧は輝かしい発展を遂げたのだと思います。それについてはここで細かくはいいませんが、とにかく義兄さんの知恵と洞察力には本当に感心しました。それらはわたしの心に深く根付き、今後もずっとよい影響を与えてくれるものと思っています。

今回の旅行を通してわたしの上海に対する見方が変わりました。それまで上海は古い街というイメージを持っていたのですが、とてもにぎやかな大都市でした。このほか、蘇州、西湖、黄山などの風景もわたしの中に鮮明に残っています。こんなに美しい風景を見る機会がない人はとても残念だと思います。そういう意味でも義兄さん、有難うございました。

今回の旅行で義兄さんは多くのことを教えてくれました。たとえば「歩くときは右側通行、いつも他人の気持ちを考えなさい」など。とても感動しました。それから旅行中のスケジュールはすべて完璧で、これに対してもお礼をいいたいと思います。わたしたちはみんな感謝しています。言葉にできないほどの感謝です。今回のことをわたしは一生忘れないでしょう。

最後に義兄さんの健康、そして合璧の今後の益々の発展をお祈りいたします。

台湾台中 弟嫁　李茵

HOPPY

# 合璧流

不断地思考与行动
诚信蜕变创新卓越
创造价值共生共荣
感谢报恩回馈社会

出版社：合璧文化基金会　发 行 人：詹其力　编辑指导：陈庆煜、詹杰文
总　编：王迎春、林生富　编辑委员：李高燕、何彩綾　印　刷：上海綜禾印刷有限公司

2012/11
第17期 11月10日发行

## 合璧の小さな傑作　合璧流について

合璧は端子台の業界において、42年にわたってトップの地位を築いています。中国では中小企業の寿命は最高で約30年、平均で13年という数字があります。40年を超える企業はわずか3%にすぎません。それなのに合璧が40年以上業界をリードし続けているのはどうしてでしょうか。大きな資金、理性的な管理、優れた感性による指導、多角的な業種、一致団結、世界一流の顧客など、どれもがその原因といえます。が、このほかにも目立たないところで多くの人から感心されているものがあります。それが合璧流です。合璧流は合璧の小さな傑作で、合璧の企業理念や文化を伝えるツールとなっているのです。

董事長は優れた洞察力で常に創造性のある「Different Ideas」を考え付きます。しかも、それをすぐに実行に移します。2010年初め、董事長がこういいました。「わたしたちは会社の刊行物によって企業理念を伝えていこう」。これに対して、当初みんなは労力も資金もかかるし、ばかげた事だと考えていました。原稿の募集、修正、写真撮影、編集とレイアウト作成、さらに一部約一元の印刷費。一期に計算すると約二千元。これが十期、二十期と続くわけです。新しいことを始める時というのは多かれ少なかれ反対する人がいるものです。しかし、董事長は自分の中に芽生えた「Different Ideas」の芽を摘むことはありません。こだわりをもって行動します。これが董事長の尊敬すべき点で、こうなるともうみんな董事長の心の中に描いた合璧流の実現に協力するしかなくなるのです。

はじめは一つの版面に軽い話題を提供するという方法でした。それは外国語のコーナー（簡単な英語や日本語の会話や語句の紹介）、同僚たちの誕生日、結婚、出産などのリストと写真、従業員の表彰や会社の近日イベントのお知らせなどです。これに対して董事長はなかなかよいという評価でした。しかし、合璧流本来のスタートが会社の理念や文化を伝えるものだったので、それといっしょに編集するのは違和感があるということで、その後は本来の目的の理念や文化を伝える内容に変わっていきました。さらに写真の色調や鮮明度、繁体字と簡体字の変換など改善が加えられました。この時も董事長が何回も指示を出して合璧流の形を作っていきました。

ある日、わたしは董事長からお客様のところに持っていくので合璧流の一期号から十期号までをそろえて閉じて置くようにいわれました。その作業をしている時、わたしは毎期の合璧流の閉じ穴の位置が一致していないことに気付きました。そればかりではありません。紙の大きさも微妙に違っていたのです。わたしは董事長に気付かれないよう、できるだけ調整しました。が、董事長はすぐに気付いたようでした。手にとって見るなりこういいました。「中国は何でもいい加減」。そしてこのあとの説教。印刷工場に連絡して担当者を呼び出し、また説教。でも、わたしはこれも董事長の教育の方法の一つだと思いました。実際に犯したミスを教材として学習させる。そして今後同じようなミスをしないようにするための。

こうして中国語版合璧流が完成、さらに改善も加えられ、自分たちの言葉で「再好一點、Much Better　もっと良い」が伝えられるようになりました。今では中国語版1～16期、日本語版1～15期、英語版10期が発行されています。このほか「送行」と「河口」は単独の中国語版も発行されました。

わたしはこれまでにほかの会社の宣伝資料や刊行物を見たことがあります。どれも素晴らしいものですが、それでも合璧流は違うと自信を持っていえます。何故なら合璧流が伝えているものは企業の経営現況ではなく無形の企業文化だからです。董事長がよくこういいます。「企業の文化や理念はその会社の十年後、さらには四十年の経営にまで大きな影響を及ぼします。これはほかの会社のものを真似てできるものではないのです」。そうです。ある会社が企業文化の重要性に気付いて、それを他の会社に真似ようと思ってもできないことなのです。会社の刊行物の中にはビジネスやエンタテイメント性の強いものが内容の中心で、どこか核心に欠ける感じがするものがあります。このような刊行物は流行音楽のようなもので、そこにはクラシック音楽のような高貴な魅力が感じられません。

合璧流が完成してすぐの頃は、積極的にそれをほかに紹介する従業員は多くありませんでした。しかし、今は違います。合璧流は多くの人に好評で、お客様のところへ持って行くための大切な贈り物となっています。そして合璧流を読んだ人は董事長に電話して感想を言いますが、そのほとんどが董事長または合璧に対する賛辞です。こうしてお客様の中で合璧の評価は高まります。

これからも企業の理念や文化は会社の基盤となっていくことはいうまでもありません。ここに短いながら合璧流の歴史を記すとともに、合璧流には「合璧の小さな傑作」という名前を与えたいと思います。

上海合璧総務　李高燕特助(山西大同)

**利益の創造は企業の經營過程、「價值創造、共生共榮、感謝と恩返し、社會への還元」、これこそわたしたちの最終目標。**